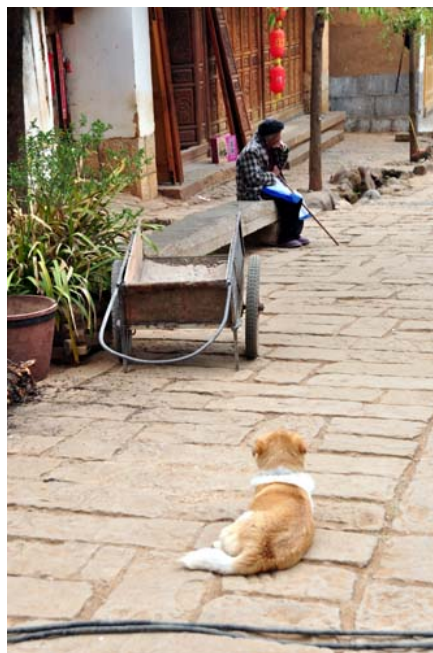


人通りは日中なので少ない。街で建設作業をしている人たちを除いて、周辺に農作業に出かけているのだろう。若い男は殆どみかけない。露天市場で買い物をしている若い女性がいるだけで、年配者が散歩しているくらいだ。



天秤棒を担いだ年配の女性に話しかけている中年の男がいた。荷物を運ぶのに天秤棒がよく使われているらしい。前巻にも天秤棒を担いだ中年の女性を写している。

年配の男性とすれ違ったら手を上げて挨拶してくれた。



年配の女性が散歩していて、おしゃべりを楽しみ、その後ベンチに座って街景色を眺めている。



近郷の農家から買い物に来たのだろう。若い娘さんが自転車 coming。右は興教寺の山門前を買い物帰りの赤ん坊を負った母親が通っていく。永年変わらぬ日常の姿がここにはまだ残されている。

歩いている人たちや店で働いている人を見ても民族衣装を特に見掛けなかった。みな普段着か農作業着であった。或いは、これが通常の姿なのかもしれない。

今この小さな村でも建設工事が行われている。前出の写真に見るように道路敷石の補修や並木や歩道



の整備、周辺では商店街らしき建物の土台がセメントで建設中であった。古い街並みの寺登街から離れているが、観光客相手のみやげ物品売り場でも作っている様子だ。村の活性化には必要なものだが、この雰囲気は是非残しておいてもらいたいと思っている。

「沙溪」はもう一度ゆっくり訪れたい場所である。盛んに観光客が訪れるようになると失う雰囲気もあるだろうが、また違った面も見せてくれるだろう。そんな変化を見たい気がする。

(沙溪古鎮の他の写真)



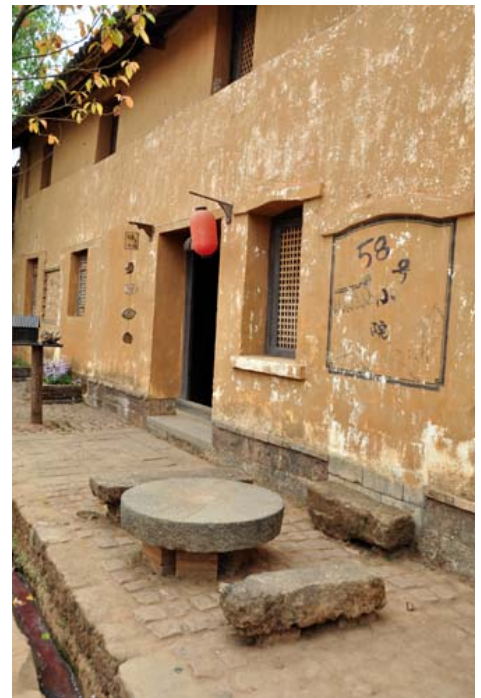
興教寺境内にあった掃除用具。長い柄は水拭き用。

壁に「活動房」とある。集会所みたいな場所ではなかろうか。



左、地方政府の伝達板。以前他で見たものよりカラフルになっていた。

右、街の食堂。或いは居酒屋かもしれない。壁には「58号小院」とある。中を覗いて見たかったが出来なかった。



左、一般の住宅の庭に「公衆トイレ」がある。写真右の壁にその看板がある。街を歩いて、どこに公衆トイレがあるか表示がないので、判らない。看板が頼りである。